

# 「こどもの自殺対策緊急強化プラン」 の進捗状況について

令和6年3月25日（月）  
第11回 自殺総合対策の推進に関する有識者会議



# 「こどもの自殺対策緊急強化プラン」に基づく取組状況について

○本年6月に、「こどもの自殺対策に関する関係省庁連絡会議」において、とりまとめが行われた「[こどもの自殺対策緊急強化プラン](#)」に基づいて、文部科学省において以下の取組を実施。

「こどもの自殺対策緊急強化プラン」	令和5年度の文部科学省の取組
<p data-bbox="51 271 476 328"><b>こどもの自殺の要因分析</b></p> <ul data-bbox="41 335 994 414" style="list-style-type: none"><li>• 学校等における児童生徒等の自殺又は自殺の疑いのある事案についての基本調査・詳細調査の実施。国における調査状況の把握・公表</li></ul>	<ul data-bbox="1036 335 1999 414" style="list-style-type: none"><li>• 今年度の問題行動等調査より、新たに、背景調査の指針に基づく基本調査、詳細調査の実施状況について把握、公表（R5年10月）。</li></ul>
<p data-bbox="51 449 694 506"><b>自殺予防に資する教育や普及啓発等</b></p> <ul data-bbox="41 514 994 728" style="list-style-type: none"><li>• すべての児童生徒が「SOSの出し方に関する教育」を年1回受けられるよう周知するとともに、学校が行うSOSの出し方に関する教育を含む自殺予防教育のモデル構築や啓発資料を国において作成・周知。</li><li>• 「心の健康」に関して、発達段階に応じて系統性をもって指導。「心の健康」に関する啓発資料の作成・周知</li></ul>	<ul data-bbox="1036 514 1999 721" style="list-style-type: none"><li>• 有識者会議において自殺予防教育のモデルに必要な要素の整理を行うとともに、令和6年度のモデル構築に向けて必要経費を計上。 R6年度予算案：10百万円</li><li>• 学習指導要領に基づく指導の充実を促進するため、啓発資料の作成・周知を実施。</li></ul>
<p data-bbox="51 749 476 806"><b>自殺リスクの早期発見</b></p> <ul data-bbox="41 813 994 1142" style="list-style-type: none"><li>• 1人1台端末の活用等による自殺リスクの把握のための、有償・無償で利用できるシステムやその活用方法、マニュアル等を作成・周知し、全国の学校での実施を目指す。</li><li>• 公立小学校、中学校等でのスクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー等の配置促進</li></ul> <p data-bbox="51 1156 476 1213"><b>自殺予防のための対応</b></p> <ul data-bbox="41 1220 994 1292" style="list-style-type: none"><li>• 不登校児童生徒への教育機会の確保のための関係機関の連携体制の整備や、不登校特例校の設置促進・充実</li></ul>	<ul data-bbox="1036 813 1999 1328" style="list-style-type: none"><li>• 1人1台端末等を活用した「心の健康観察」の全国の学校での導入を推進。 R5年度補正：10億円</li><li>• 悩みや不安を抱えた児童生徒の早期把握に資する健康観察・教育相談システムの一覧や無償のアンケートフォーム等を活用する場合のマニュアルを国において作成・周知（R5年7月）。</li><li>• スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカーの配置充実。 R5年度補正：7億円、R6年度予算案：84億円</li><li>• 「誰一人取り残されない学びの保障に向けた不登校対策（COCOLOプラン）」に基づき、学びの多様化学校や校内教育支援センターの設置促進等を実施。 R5年度補正：51億円、R6年度予算案：88億円</li></ul>

# いじめ・不登校等の未然防止に向けた 魅力ある学校づくりに関する調査研究

令和6年度予算額（案） 0.4億円  
（前年度予算額 0.3億円）



文部科学省

令和5年度補正予算額 14億円

## 背景・課題

- 小・中学校における不登校児童生徒は約30万人、いじめ重大事態の発生件数も923件と過去最多となっており、憂慮すべき状況。そうした中で、不登校の児童生徒全ての学びの場を確保し、学びたいと思った時に学べる環境を整えることやいじめ対策は喫緊の課題。
- 1年間の児童生徒の自殺者数は514人（令和4年）に上り、前年の473人と比べて大きく増加。
- 様々な悩みや不安を抱える児童生徒に対する切れ目ない支援充実のため、児童生徒の心の不安定さや教員による児童生徒の状況把握等の困難に対応する必要。

## 事業内容

### 01 学びの多様化学校の教育の充実に関する調査研究委託【13百万円】

実施主体: 学びの多様化学校を設置する自治体、学校法人  
実施予定箇所数: **3箇所**

- 不登校児童生徒の実情に応じた教育課程及び教育活動の工夫、学校運営上の取組、地域との連携等、学びの多様化学校の教育の充実に関する調査、運営モデルを構築する。
- ・ICT等を活用した教育活動の効果やカリキュラムの開発
- ・自宅における学習活動の把握方法と評価への反映の在り方
- ・運営モデル形成コーディネーターを活用した教職員との役割分担の在り方 等

### 02 経済的に困窮した家庭の不登校児童生徒に対する経済的支援の在り方に関する調査研究【8百万円】

実施主体: 都道府県・指定都市、市区町村 実施予定箇所数: **8箇所**

- 教育支援センターやフリースクール等に通う際に必要な交通費や体験活動等に要する費用を当該児童生徒の保護者に直接支払うことで通所の状況や不登校児童生徒の社会的自立に向けた意識の変化等、経済的支援の潜在的な需要に関する調査を実施

### 03 自殺予防教育の指導モデル開発【新規】【10百万円】

実施主体: 研究機関等 実施予定箇所数: **1箇所**

- 自殺予防教育のモデル・啓発資料の検討
- 自殺予防教育の教材作成

### 04 心理・福祉に関する教職員向けの研修プログラムの開発【新規】

実施主体: 民間団体等 実施予定箇所数: **2箇所【8百万円】**

- 教師が教育相談コーディネーターとして対応して、チームで切れ目のない支援を行うため、心理や福祉分野等の専門性を身に付けるための現職の教師に向けた研修プログラム・教材作成のため調査研究を実施する。

### 05 1人1台端末等を活用した「心の健康観察」の全国の学校での導入推進【令和5年度補正予算額 10億円】

実施主体: 都道府県・国立大学附属学校 実施予定箇所数: **122箇所**

- 1人1台端末等を活用して、児童生徒の心や体調の変化を把握し、メンタルヘルスの悪化や児童生徒が発するSOSの早期発見につなげる「心の健康観察」の導入を推進。

### 06 教育支援センターの総合的拠点機能形成に関する調査研究【令和5年度補正予算額 3億円】

実施主体: 全都道府県・指定都市等 実施予定箇所数: **20箇所**

- 支援を受けられていない不登校児童生徒へのアウトリーチ支援の実施や保護者に対する相談窓口を新たに開設する等教育支援センターが不登校児童生徒への支援に係る地域の総合的な拠点となるためのモデル構築を行う。

### 07 不登校・いじめ対策等の効果的な活用の推進

【令和5年度補正予算額 1億円】

実施主体: 民間団体等 実施予定箇所数: **1箇所**

- 不登校・いじめ対策の実施状況を調査・分析し、効果・課題を整理し、更なる対策充実につなげるとともに、優れた事例を収集・展開する。

## 現状・課題

- 不登校児童生徒数が、小・中学校で約30万人、そのうち学校内外の専門機関等で相談・指導等を受けていない小・中学生が約11万4千人と、いずれも過去最多となり、また、いじめ重大事態の発件数も923件と過去最多となる中、安心して学ぶことができる、「誰一人取り残されない学びの保障」に向けた取組の緊急強化が必要であることから、「不登校・いじめ 緊急対策パッケージ」を令和5年10月に策定。
- 「誰一人取り残されない学びの保障に向けた不登校対策（COCOLOプラン）」（令和5年3月）、「こどもの自殺対策緊急強化プラン」（令和5年6月）及び「経済財政運営と改革の基本方針2023」（令和5年6月閣議決定）等を踏まえた不登校・いじめ対策を前倒して緊急実施。

## 事業内容(委託)

### ①教育支援センターの総合的拠点機能形成 3億円

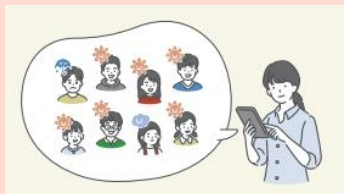
- 支援を受けられていない不登校児童生徒へのアウトリーチ支援の実施や保護者に対する相談窓口を新たに開設する等教育支援センターが不登校児童生徒への支援に係る地域の総合的な拠点となるためのモデル構築を行う。
- 期待される機能・役割
  - 学校内外の専門機関等で相談等を受けていない不登校児童生徒や保護者を支援につなげる。
  - 不登校児童生徒への支援に加え、その保護者が必要とする情報を提供するとともに、子供たちを様々な学びの場や居場所につなげる。
  - 学校、民間団体、保護者等と連携を図るための支援会議を実施。



### いじめ・不登校・自殺リスク等の早期把握に向けた

### ②1人1台端末等を活用した「心の健康観察」の導入推進 10億円

- 不登校やいじめ、児童生徒の自殺が急増する中、児童生徒のメンタルヘルスの悪化や小さなSOS、学級変容などを教職員が察知し、問題が表面化する前から積極的に支援につなげ、未然防止を図ることが必要。
- 1人1台端末等を活用して、児童生徒の心や体調の変化を把握し、早期発見、早期支援につなげる「心の健康観察」の全国の小中高校での実施を目指し、各学校設置者の導入を推進する。



### ③不登校・いじめ対策等の効果的な活用の推進 1億円

- 各地域・学校における不登校・いじめ対策の実施状況を調査・分析し、対策ごとの効果・課題を整理することにより、さらなる不登校・いじめ対策の充実につなげるとともに、優れたモデルとなり得る事例を収集・展開する。

#### 委託先

- ①都道府県・政令指定都市
- ②都道府県・政令指定都市等  
※市区町村及び私立学校は都道府県から再委託
- ③民間団体等

#### 対象経費

- ①専門スタッフ等に係る経費  
連携会議開催等に係る経費 等
- ②「心の健康観察」導入に係る検討経費、  
教職員への研修・域内への普及等に係る経費 等
- ③アンケート・ヒアリング調査、報告書作成等に係る経費 等

# 1人1台端末を活用した心や体調の変化の早期発見の推進

こどもの自殺対策緊急強化プラン（令和5年6月2日）を踏まえ、1人1台端末等を活用して児童生徒の心や体調の変化を把握し、自殺リスク等の早期発見につなげる取組を推進するため、「児童生徒の自殺予防に係る取組について（通知）」（令和5年7月10日付け）において、以下を教育委員会等に周知。

- 無償・有償で利用できる健康観察・教育相談システムの一覧
- Googleフォーム又はMicrosoft Formsを活用した無償のアンケートフォーム作成マニュアル

## <健康観察・相談システム一覧（抜粋）>

### 無償

会社名	システム名	機能
Google	Google フォーム	・健康観察 ・相談窓口
Google	Looker Studio <a href="#">【Google】Looker Studio in a minute-YouTube</a>	・データの可視化
Microsoft	Microsoft Forms	・健康観察 ・相談窓口
Microsoft	Reflect	・健康観察

### 有償

会社名			
一般社団法人 RAMPS 	公益社団法人 子どもの発達科学研究所 	スタンバイ株式会社 	株式会社 ミライト・ワン・システムズ 
株式会社 リーバー 	株式会社 EDUCOM 	株式会社 LoiLo 	株式会社 Welcome to talk 

## <アンケートフォーム作成マニュアル>

○本マニュアルでは、Google フォーム™、Microsoft Forms を用いて、下記の質問項目を設定する方法や、GAS（Google Apps Script）やマクロの起動方法について解説。

### <質問項目>

- 1.日付
- 2.クラス
- 3.出席番号
- 4.名前
- 5.体調
- 6.心の状態（心の天気）
- 7.教育相談の希望
- 8.相談相手の指定
- 9.自由記述欄

### 健康観察・教育相談アンケート作成マニュアル

本マニュアルでは、Google フォーム™、Microsoft Forms を用いて、下記の質問項目を設定する方法を解説いたします。

#### <質問項目>

- 1.日付
- 2.クラス
- 3.出席番号
- 4.名前
- 5.体調
- 6.心の状態（心の天気）
- 7.教育相談の希望
- 8.相談相手の指定
- 9.自由記述欄



### 児童生徒に健康観察・教育相談のアンケートを行う

Google フォームで Web アンケートを作成・共有することで、健康観察や教育相談をすることができます。



### マクロ起動方法について

Microsoft Formsで作成した回答Excelで、マクロを起動させる方法を解説します。

- (1) Excelファイルを開く際のファイル形式は「読み取り専用」に変更する。  
[Microsoft Formsで作成したExcelファイルを開く]⇒[ファイル]⇒[アクセス]⇒[ファイルの権限の変更]⇒[マクロ有効ブック (Content)を選択]⇒[名前を付けて保存]



- (2) Excelマクロを使用できるようにする。  
[ファイル]⇒[オプション]⇒[セキュリティセンター]⇒[詳細設定]⇒[マクロの設定]⇒[マクロの起動]⇒[マクロの有効化]⇒[マクロの有効化]





# スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカー による教育相談体制の充実

令和6年度予算額(案) 84億円  
(前年度予算額) 82億円



文部科学省

令和5年度補正予算額 7億円


- ◆ 不登校児童生徒数が、小・中学校で約30万人、そのうち学校内外の専門機関等で相談・指導等を受けていない小・中学生が約11万4千人と、いずれも過去最多となり、また、いじめ重大事態の発生件数も923件と過去最多となる中、「誰一人取り残されない学びの保障」に向けた取組の緊急強化が必要であることから、「不登校・いじめ 緊急対策パッケージ」を令和5年10月に策定。
- ◆ また、社会問題化している昨今の児童虐待相談対応件数の急増等を踏まえ、学校における児童虐待の未然防止・早期発見や、児童虐待発生時の迅速・的確な対応に向けた相談体制の充実は喫緊の課題。



## スクールカウンセラー等活用事業

令和6年度予算額(案) 6,085百万円(前年度予算額 5,889百万円)  
事業開始年度: H7~(委託)、H13~(補助)

<b>補助制度</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>負担割合: 国1/3、都道府県・政令指定都市2/3</li> <li>実施主体: 都道府県・政令指定都市</li> <li>補助対象経費: 報酬・期末手当、交通費等</li> </ul>
<b>求められる能力・資格</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童生徒の心理に関して専門的な知識・経験を有する者 ⇒ 児童の心理に関する支援に従事(学教法施行規則)</li> <li>公認心理師、臨床心理士等</li> </ul>
<b>基盤となる配置</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li><b>全公立小中学校</b>に対する配置 : 27,500 校 &lt;週4時間&gt;</li> </ul>
<b>重点配置</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● <b>重点配置校</b> : <b>10,000</b> 校 (← 7,200 校) &lt;週8時間&gt;</li> </ul>
<b>課題に応じた配置の充実</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>&gt; <b>いじめ・不登校対策</b> : <b>5,700</b> 校 (← 2,900校)</li> <li>&gt; <b>虐待対策</b> : <b>2,000</b> 校</li> <li>&gt; <b>貧困対策</b> : <b>2,300</b> 校</li> </ul> <p style="text-align: center;">※夜間中学への配置を含む</p>
<b>上記以外の質の向上、拠点の機能強化等</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>スーパーバイザー : <b>67</b> 人 &lt;週4時間&gt;</li> <li>教育支援センター : <b>250</b> 箇所 &lt;週4時間&gt;</li> <li>オンラインによる広域的な支援 : <b>67</b> 箇所 &lt;週40時間&gt;</li> <li>自殺予防教育の実施を含む</li> </ul>
<b>SC配置以外の支援</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>SNS等を活用した相談のための相談員の配置</li> <li>「24時間子供SOS電話ダイヤル」の相談員の配置</li> <li>専門性向上のための研修・連絡協議会の開催に係る経費の支援</li> </ul>



## スクールソーシャルワーカー活用事業

令和6年度予算額(案) 2,355百万円(前年度予算額 2,313百万円)  
事業開始年度: H20~(委託)、H21~(補助)

<b>補助制度</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>負担割合: 国1/3、都道府県・政令指定都市・中核市2/3</li> <li>実施主体: 都道府県・政令指定都市・中核市</li> <li>補助対象経費: 報酬・期末手当、交通費等</li> </ul>
<b>求められる能力・資格</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>福祉に関して専門的な知識・経験を有する者 ⇒ 児童の福祉に関する支援に従事(学教法施行規則)</li> <li>社会福祉士、精神保健福祉士等</li> </ul>
<b>基盤となる配置</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li><b>全中学校区</b>に対する配置 : 10,000 校 &lt;週3時間&gt;</li> </ul>
<b>重点配置</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● <b>重点配置校</b> : <b>10,000</b> 校 (← 9,000 校) &lt;週6時間&gt;</li> </ul>
<b>課題に応じた配置の充実</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>&gt; <b>いじめ・不登校対策</b> : <b>4,000</b> 校 (← 3,000校)</li> <li>&gt; <b>虐待対策</b> : <b>2,500</b> 校</li> <li>&gt; <b>貧困対策</b> : <b>3,500</b> 校</li> </ul> <p style="text-align: center;">※夜間中学・ヤングケアラー支援への配置を含む</p>
<b>上記以外の質の向上、拠点の機能強化等</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>スーパーバイザー : <b>67</b> 人 &lt;週3時間&gt;</li> <li>教育支援センター : <b>250</b> 箇所 &lt;週3時間&gt;</li> <li>オンラインによる広域的な支援 : <b>67</b> 箇所 &lt;週40時間&gt;</li> </ul>
<b>SC配置以外の支援</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>SNS等を活用した相談のための相談員の配置</li> <li>「24時間子供SOS電話ダイヤル」の相談員の配置</li> <li>専門性向上のための研修・連絡協議会の開催に係る経費の支援</li> </ul>

## 不登校児童生徒等の学び継続事業

・SC・SSWの配置充実[令和5年度補正予算額:686百万円]  
不登校・いじめの解消に向けた緊急的な支援を促進するため、SC・SSWの配置を支援 **:3,900校**

### <配置の工夫について>

自治体の配置の工夫により、週8時間以上の配置も可能(特に、いじめ・不登校等困難な課題を抱える学校(1,000校)や学びの多様化学校を想定)。

(担当: 初等中等教育局児童生徒課)

# 不登校対策COCOLOプラン関連事業

令和6年度予算額（案）  
（前年度予算額）

89億円  
86億円  
※内数を除く



文部科学省

- ・不登校児童生徒は10年連続増加（令和4年度の小・中・高等学校の不登校児童生徒数：約36万人）しており、憂慮すべき状況。
- ・90日以上の不登校であるにもかかわらず、学校内外の専門機関等で相談・指導等を受けていない小・中学生が5.9万人存在。
- ・令和5年3月、文部科学大臣の下、「誰一人取り残されない学びの保障に向けた不登校対策（COCOLOプラン）」を発表。
- ・令和5年10月、総理大臣から不登校等の緊急対策を経済対策にも盛り込むよう指示があり「不登校・いじめ緊急対策パッケージ」をとりまとめ、COCOLOプランの取組を前倒しで実施。

令和5年度補正予算額 51億円

不登校の児童生徒全ての  
学びの場を確保し、  
学びたいと思った時に学べる  
環境を整えます。

## 学びの多様化学校（※）の設置促進 2億円（1億円） ※令和5年8月に名称変更

- ・学びの多様化学校の設置準備（補助上限約500万円）
- ・令和6年度に指定される学びの多様化学校の設置後の運営支援（補助上限約400万円）【新規】
- ・SC・SSWの配置充実（自治体の配置の工夫により、最大週40時間の配置も可能）
- ・不登校児童生徒個々の実情に対応するために必要な支援に係る教職員配置（義務教育費国庫負担金）（学びの多様化学校に対する教職員の優先配置等）
- ・学びの多様化学校の教育活動の充実に関する調査研究
- ・廃校や余裕教室等の既存施設を改修して活用する場合の支援メニューの創設（令和9年度まで）【新規】 P 億円の内数

## 校内教育支援センター（スペシャルサポートルーム）の設置促進 29億円

- ・校内教育支援センター（SSR）の設置促進【新規】（★）
- ・学習指導員等の配置充実【拡充】 P 億円の内数（36億円の内数）

## 教育支援センターのオンライン体制・アウトリーチ機能の強化 5億円

- ・教育支援センターのICT環境の整備【新規】（★）
- ・教育支援センターの総合的拠点機能形成に係る調査研究【新規】（★）

## 多様な学びの場、居場所を確保等

- ・関係機関との連携を支援するコーディネーター等の配置
- ・不登校児童生徒支援協議会等の設置及び教職員研修会等の実施
- ・夜間中学の設置準備・運営支援及び教育活動の充実
- ・高等学校における教育の質確保・多様性への対応に関する調査研究 0.7億円の内数(0.8億円の内数)
- ・各学校・課程・学科の垣根を超える高等学校改革推進事業【新規】1.2億円の内数
- ・不登校・いじめ対策等の効果的な活用の推進【新規】1億円(★)



1



心の小さなSOSを見逃さず、  
「チーム学校」で支援します。

## 1人1台端末を活用した心や体調の変化の早期発見を推進 10億円

- ・1人1台端末等を活用した「心の健康観察」の全国の学校での導入推進（全都道府県・指定都市等）【新規】（★）

## 「チーム学校」による早期支援を推進 84億円（82億円）+7億円

- ・SC・SSWの配置及び重点配置校数の拡充
- ・SC・SSWによる緊急相談支援（★）

## 一人で悩みを抱え込まないよう保護者を支援

- ・SC・SSWの配置（再掲）、保護者学習会等の実施を支援



2



学校の風土の「見える化」を通して、  
学校を「みんなが安心して学べる」  
場所にします。

## 学校で過ごす時間の中で最も長い「授業」を改善（子供たちの特性に合った柔軟な学びを実現）

- ・校内教育支援センターの設置促進（★）及び学習指導員等の配置充実（再掲）

## 快適で温かみのある学校としての環境整備

- ・公立小・中学校等の施設整備を行う自治体に対し、その一部を支援 P 億円の内数（687億円の内数）（★）



3

（★）については令和5年度補正予算において措置

（担当：初等中等教育局児童生徒課）